



# 正副会長の活動状況

## — 会務報告 —

日本弁理士会副会長

高山 和也

### 1. はじめに

令和4年度の副会長を務めております高山和也です。本年度は、これまでに比べて新型コロナウイルスの影響も少なくなり、徐々に従前の生活に戻りつつあるように感じる反面、各会務や会員同士の交流では一定の制約が残されており、本来であれば、日ごろからお世話になっている皆様に直接お会いし、感謝の気持ちや会務についてお伝えすべきところですが、まずは、本紙面にて会務活動についてご報告したいと思います。

さて、ご存じのとおり、杉村会長は、令和3年度は、コロナ禍での会務運営の中、「時代の変化をチャンスに！」をスローガンに、ウェブ会議システムを活用するなど、工夫をしながら会務活動を積極的に進めてまいりました。本年度は、前年度の経験を踏まえつつも、「知的財産が支える社会をデザインする！」をスローガンに、社会的課題を解決する新技術や新サービスを創出する環境を整え、知的財産が寄与する社会を目指し、国際的課題であるSDGsを日本弁理士会の活動の中にも位置付けながら、各事業を推進しています。このような杉村会長の意思の下、会長の任期2年目の集大成の年として、全力で支えて参る所存です。

### 2. 会務報告

現在の担当について、委員会は、国際活動センター、コンプライアンス委員会、商標委員会、ダイバーシティ推進委員会、及び万博委員会を、また、地域会は、関西会、及び四国会を担当しています。

以下、それぞれについて簡単にご紹介いたします。

#### (1) 国際活動センター

昨年度、国際活動センターの活動のうち、国際会議への会員派遣や海外知財団体との交流イベントは全てオンラインで行っていました。オンライン開催は費用や移動時間等の負担が少なく、気軽に交流できる一

方、その場での空気間や気軽な談笑、その中でリアルに直面することによるコミュニケーションは難しくなります。

今年度は、従来のような現地での参加ができるか、その時点での状況を踏まえつつ、判断したいと考えています。

#### (2) コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会では、弁理士法改正により弁理士法人とされたことに伴った各規定の検討や、今年度の具体的施策の中にある「7. 弁理士のスキルアップ研修の提供」に関連して能力担保研修の弁理士倫理の科目に関して検討を進めています。

#### (3) 商標委員会

商標委員会では昨年に引き続きブランド戦略をテーマにスタートアップ支援でのブランディングの重要性の周知活動をはじめとした同戦略の調査や検討、商標制度に関する検討や提言、WIPO 関連機関・TM5・税関等に関する各種テーマの検討及び意見書の提出等に取り組んでいます。

#### (4) ダイバーシティ推進委員会

昨年、新たに立ち上げられたダイバーシティ推進委員会では、昨年度フォーカスした女性会員の活躍推進についての調査等に加えて、他の観点からも弁理士会としてのダイバーシティについての切り口を探りたいと思います。また、セミナーの開催なども企画しており、6月末に実施された袖野玲子教授（芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科）による「知財が支えるイノベーションとSDGs」との研修はウェブのみでの実施でしたが多数の参加を得て好評を博しました。

#### (5) 万博委員会

万博委員会では2025年に開催を控えている「2025大阪・関西万博」に寄与すべく、大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナー

に登録し、万博を全国区で盛り上げていくための活動を検討し、次年度につなげていければと考えています。

### (6) 関西会

関西会は会員数も多く、事業も多岐にわたるところ、大阪弁護士会や日本公認会計士協会近畿会等の他団体との交流、中小企業支援活動や教育現場への知的財産制度の周知、INPIT—KANSAI との連携・協力事業地域知財活性化事業等、幅広い事業を行っています。

### (7) 四国会

四国会では本年度から知財キャラバンの取り組みがなされようとしています。副会長に就任したことをきっかけに四国会の現状や取組み、同会に所属する方々と交流できたことは会務に携わることにより得られた経験です。

## 3. むすびに代えて

また、この場をお借りして、事務局の皆様に対しても感謝の言葉を申し上げたいと思います。弁理士登録をして間もなく、本会の会務に従事する機会がそう多くなかった身にとって、会務運営が不慣れなこともあり、各附属機関や委員会を担当されている事務局の方々には、今までと比べて、ご迷惑をおかけし、ス

ムーズに仕事が進めにくいと感じさせていることと存じます。そのような中、事務局の方々は、嫌な顔一つせず（むしろ笑顔で！）、日ごろからサポート戴き大変感謝するばかりです。特に若手の皆様におかれましてはコロナ禍での業務は前例になく苦労をされているものと思料しますが、日々やり取りする中でその能力の高さにいつも助けられています。今年度の事業計画には、事務局員のウェルビーイングも挙げられておりますが、事務局の皆様が働きやすく、今よりももっと結果を出しやすい組織になるよう尽力できればと思料しております。

最後になりましたが、副会長の任期は残り半年となりました。会務に慣れてきたころに任期を終えることになりそうですが、残りの半年間も、引き続き、自分なりに弁理士会の未来を熟慮し、粉骨砕身、副会長としての職務を全うしたいと思います。

会員や事務局の皆様におかれましては、引き続き会務へのご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

では、本号が発刊される9月には、今よりも状況が改善されていることを祈って、筆を擱くことにいたします。